

図書館報

聖隷クリストファー大学

第14号 2016.4

🌸 専門職である前に品格のある人になる(佐藤順子) ……1	🌸 この一冊 …… 6
🌸 本を読むということ(藤田美枝子) ……2	🌸 蔵書の検索方法 …… 10
🌸 本のタイトルは私にとっての「道案内」(鈴木知代) ……4	🌸 お知らせ …… 12



「専門職である前に品格のある人になる」

リハビリテーション学部言語聴覚学科 教授 佐藤 順子

本学に入学する多くの学生は、高校生の時に既に将来の職業を定めて入学してきます。そして、4年間多くの基礎・専門科目を学び、長く厳しい実習を経て、さらには夜遅くまで卒論を執筆し、寝る間も惜しんで長時間の国家試験勉強に耐えて、ようやく4年間の集大成とも言べき国家資格を手にして卒業、就職します。文科省が推進するキャリア教育の結果、高校生の時に将来の進路が決まっていることは素晴らしいことだと思います。しかし、本来のキャリア教育の目標は、子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくことができるよ

うにする教育が強く求められています。

そのためには、幅広い教養と多様な体験が必要になります。専門職を養成する本学では、残念ながら、専門以外の幅広い教養を身につける機会が少ないのが実情です。教養とともに大切なことは「品格」があることだと思います。10年ほど前に坂東眞理子著の『女性の品格』が出版されました。坂東氏は、「品格のある一人一人の個人があつてこそ、品格のある家庭が、品格のある企業が、品格のある社会が成り立つのです。まず個人の品格ありきです。そして人間個人としての品格とは、正義感、責任感、倫理観、勇気、誠実、友情、そして忍耐力、持続力、節制心があり、判断力、決断力に富み、優しく思いや

りがあるなどという美德は、品格ある人間であるための重要な要素です」と言っています。学生が就職後に対人援助職として接する方々の多くは一般の会社で働き、主婦として子育てや介護を経験した方々です。対象者の方のことを理解するためにも幅広い教養や多様な経験に加え、品格のある対応が求められます。『女性の品格』というタイトルですが、品格は男女共通です。特に具体的な日常生活の振舞い方について書かれた部分は実習前に読んでいただきたいと思います。品格は一朝一夕には身に付きません。品格のある日常を実践していくうちに品格のある生き方にたどり着くと思います。専門職である前に、一人の人間として教養に溢れた品格のある魅力的な人になってほしいと思います。

今春、女性の採用や昇進の機会拡大を図る「女性活躍推進法」が施行となります。しかし、ジェンダーギャップ指数は世界101位、第一子出産を機に、6割の女性が離職をする現況は、以前とほとんど変わっていません。子どもが生まれたら今までの生活ができなくなる、仕事と両立できないと言って子どもを産

むことを躊躇する女性がいます。確かに子どもがいると自由が制限され、様々な負担がかかります。しかし、子どもをもつ喜び、育てる喜びは何にも代えがたく大きいものです。子どもができたら、次は『親の品格』(坂東眞理子著)を読んでみてください。いまや女性の社会進出、活躍は当たり前となった日本の社会ですが、女性の時代であるからこそ、従来の男性社会とは異なる価値観、柔軟でしなやかな女性らしさを職場や家庭で発揮してほしいと思います。

現代の社会の中で女性の生き方、役割が大きく変わりつつあります。そしてこれからは女性こそが生き方を選択できる時代になってきました。男性並みに働くだけではなく、思いやりにあふれ、協調性に富むという女性らしさを生かして社会の中で活躍していくこそが、男性社会を見直し、男女問わず、柔軟な考え方や自由な意識をもつ社会へと変革していけると信じています。それこそが、一億総活躍社会を実現できる道ではないでしょうか。



本を読むということ ～著書と共に作品を成長させる営み～

社会福祉学部こども教育福祉学科 教授 藤田 美枝子

今回、本を読むということについて、あらためて考える機会を与えられました。読書とは、言うまでもなくある本の内容に寄り添いながら、著者の意図を辿り込められた気持ちへ思いを馳せ、作品の物語に近

づいていく個別の作業であると思います。

さらに、この本を読むという作業が進む中で、それ以上のことが起こるのではないのでしょうか。何故なら、一人ひとりの読者が今生きているそれぞれの状況に

において読むことで、その作品は、新しい意味や価値をその個人の内に創造し、成長し続けていくと思うからです。

このように、本は著者によって生み出され、再度読者によって個別の価値が付与されていくと考えると、読書とはまさに「作者と共に作品を成長させる営み」であり、とても創造的な行為であると言えます。こうしたことは、読書だけでなく絵画や写真、音楽といった芸術一般を鑑賞するという、一見受け身的な行為全般にあてはまることかもしれません。

こうしたことに気付かされたのは、学生たちから提出された課題レポートがきっかけでした。こども教育福祉学科の必修科目の一つに社会的養護という科目があります。社会的養護とは、「子どもの最善の利益」と「社会全体で子どもを育む」という2つの理念を持ち、適切な養育をされていない子どもやその家庭に対して必要な支援を行い、子どもが心身ともに健康に育つ基本的な権利を保障していくことです。この社会的養護の授業の中で、複雑な家庭環境から児童養護施設等で子ども時代を過ごした渡井さゆりさん著の『「育ち」をふりかえる』という本を取り上げ、読んだ感想についてレポートすることを課題としました。どのレポートにも学生の素直な気持ちと感受性が満ち溢れていました。以下に、学生の書いたそのままの文を幾つか紹介します。

「私は、当たり前のように家族がいて、信頼できる友達がいる。この当たり前は本当に幸せで奇跡なのかと感じた。今、母子家庭が増え生活保護を受けざるを得ない家庭も多い。この本のように支援が行き届かない家庭もあるかもしれない。どこの子どもも平等な生活環境があって笑顔で生きていくために、私達はどんな手助けができるだろうと常に考え、今の生活1日1日を大切に過ごしていきたい。」

「文中にもあったが、支援をしてくれる機関があるにも関わらず、つながりを持たずにいればその支援は意味を持たない。知ってもらうことから始めなくてはいけないと感じた。自らの育ちを見つめ直すことは素晴

らしいことだと思った。」

「すごい子ども時代を過ごしていたんだなと思った。子どもにとって大人からの、特に両親からの愛がとても大切であるとあらためて感じた。たとえ施設で暮らしていても子どもたちは大人からの愛を必要としている。これに気付き、応えていくことが重要であると考えた。」

『自分は人と違う』と感じたことは、私自身もあった。私は母子家庭なので、不便だと思うことはないが、『一般家庭』と世間で思われている家とは違うので『人と違う』と感じる。両親がいることが当たり前として周りの人が会話しているのを聞いていると、『人と違うんだな』と思う。著者の育ちは、とても過酷なものだと思った。」

「著者が感じた『愛されているという感覚が分からない』という漠然とした不安を私も経験することがあり、この体験記を読んでみて共感できる部分が多くあった。今までこの負の感情は、どうしようもないうっとうしい感情として後ろ向きにしか捉えられなかった。けれど、この感情を持っているということは、そういった人を少しでも理解できるきっかけになるのだと、この本を読んで、前向きに捉えることもできると気付かされた。」

紹介したい学生の感想はまだまだ続きます。1冊の本が、読み手一人ひとりの胸の中で広がり新たな思索をもたらすことで、その作品も読み手も共に成長していくのだと教えられました。

最後に、尊敬するマハトマ・ガンディーの言葉を書かせていただいてペンを置きます。

Live as if you were to die tomorrow. Learn as if you were to live forever.

(明日死ぬと思って生きよ。不老不死だと思って学べ。)





本のタイトルは私にとっての「道案内」

看護学部看護学科 教授 鈴木 知代

ある日の私です。仕事に行き詰る日々を過ごしていた私の前に、この本は登場しました。おお、なんとというタイトルでしょう。「人生はニャンとかなる！明日に幸福をまねく68の方法」。おお、68も人生がなんとかなる方法があるのかと思い、即決で購入。表紙の写真は、これまた素晴らしいのです。猫がまっすぐに前をけなげに見つめているではありませんか、私のようにではないかと思いつつ、表紙の紙は和紙で手触りが最高でした。

さて、確かに、明日に幸福をまねく方法として68の猫は7つのカテゴリーに分けられ、「大切なこと」を教えてくださいました。例えば、カテゴリー「仕事」では、【現実から目をそらさない】という言葉と一緒に、そこには太った猫が体重計に乗らないで体重計を見つめている写真、そして半導体メーカーインテルの実業家が、現実を直視し大きな痛みを伴う改革をして、瀕死の会社を生き返らせたことが書かれていました。なんだ、『痛いではないか』、楽しんで人生を生きる方法等ないのだと思い知らされました。また、うつうつとしていた私の前に、おお、なんとというタイトルか「人生はもっとニャンとかなる！明日にもっと幸福をまねく68の方法」。もっと何とかなる方法があるのか、しかし待てよ、このパターンはと思いつつも、またまた即決購入。さらに表紙では、前を見据える猫は二匹となっていました。今回は二匹と強力だな〜と薄ら笑いをうかべながら読むと、やはりパターンは同じ。カテゴリー「仕事」、【どんな仕事もなめない】では、手をなめているずうずうしい猫の写真、さらにケンタッキー・フライド・チキン創業者の、どんな些細な仕事でも自分のできる最高のサービスを行ったエピソードが書かれ、この姿勢が大成功をおさめた要因だっ

たと分析しています。【必死で食らいつけ】では、私が大好きな映画の話でした。皆さんもご存じのスターローンは、50回以上もオーディションに落ちてもスターになることをあきらめず、方法を模索し続けボクサーの脚本を書き上げ、情熱をかけて売り込み上映の運びとなった映画が「ロッキー」だったのです。あきらめない、情熱、はいはい、次は何？と本と会話しながら68+68=136の方法を読み終わりました。何だか本当に何とかなっていきような気がするの、不思議です。



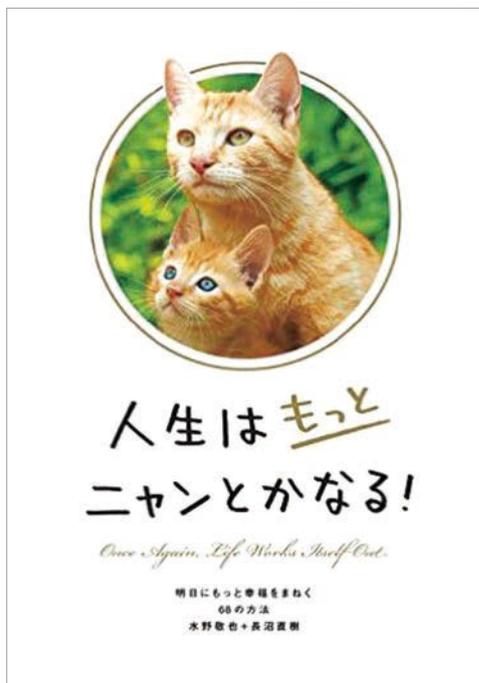
このように私は、その時の悩み、興味、関心を本のタイトルに重ね合わせ、これが「道案内」となり日々歩んでいるようです。毎週日曜日の買い物の前に、必ず本屋さんに立ち寄るのが習慣となっています。壁一面に本が並び、そのタイトルを読んでいくことでとても幸せになれます。わずかな字数で、内容を表し、人をひきつけ、感動を与える本のタイトルは素晴らしいと思います。もちろん、毎回購入はできないので、同じ本が図書館にないか探します。ない場合はリクエストもしていきます。

今はまっているタイトルの分野は、「高齢者」です。そろそろ自分も老後の備えをと思い、まず、上野千鶴子先生の「おひとりさまの老後」を読みました。「老

いを生きるヒント」なども読み、準備は必要だが楽しい老後を思い描いていました。しかし、なぜ老人は才覚を失ってしまったのかと問う曾根綾子先生の「老いの才覚」では、年を取ったら国内おすすめ人気バスツアーに行つて、海外ではないところが「せこい」と思いつつ、楽しく過ごそうと考えていた私の考えは吹っ飛び、老人たるもの、老人としての姿勢は何かを考えさせられました。それから、高齢化の問題部分に突き進み、「無縁社会の正体 血縁・地縁・社縁はいかに崩壊したか」では、単身者が急増している現実と家族をつくろうとしない人々の増加、低下している家族の絆を実感しました。「下流老人 一億総老後崩壊の衝撃」「老人たちの裏社会」などを読み進め、今は、「人生は金だ」、金を貯めておかないと年金も当てにならない、すぐ下流老人になるのではと、タイトルに影響される日々を送っています。

最後に、「人生はもっとニャンとかなる」の中で、【ありのままに歩こう】という言葉と太った猫が芝生の上を軽快に歩んでいる写真があり、ほっとさせられました。そして、シェークスピアが名声を勝ち得た後、47歳で劇作家をやめて故郷に戻り、安らかな生活を始めたことについて、周囲からの期待や批判に流されずに自分を幸せにするための人生を歩みましょうと書かれていました。「47歳でやめてもニャンとかなったんだ」……。しかしよく読むと、47歳までに計画して土地と家を持ち、劇場の株を買って準備をしたから安らかな生活が待っていたとのことでした。

また「やられた」と思いながら、今日も夕食の買い物の前に、本屋さんの本のタイトルを見つめ、金、努力、計画、いやいや金がなくても努力がなくても「ニャンとかなる」人生も必ずあるはずだなどと考える私でした。こんな私の姿を見かけたら、ぜひお声をかけてください。



この一冊



本学教員からのお勧めの一冊

(五十音順)

『結果を出せる人になる！「すぐやる脳」のつくり方』

茂木健一郎著 学研パブリッシング



皆さんの頭の中で、勉強は「やるもの」ではなく「やらされるもの」になっていませんか？

本書はこのような状況から抜け出す方法を脳科学の見地から説明しています。

「脳にやる気を与える方法は、脳への報酬構造をつくること」など、日々のちょっとした意識や習慣を変えるだけで、新しい神経回路が強化され、勉強を主体的に進めていくヒントが書かれています。

ぜひ、皆さんに読んでいただきたい一冊です。

リハビリテーション学部言語聴覚学科 助教 佐藤 豊展



『だいじょうぶ！ よネコさん』

国栖晶子絵・文 かもがわ出版



“そう！「介護」は突然やってくる！！”（本文より）

作者自身の体験を基にした、介護の絵本です。ある日突然始まった介護、次から次へと起きる出来事を通して経験した、人と人とのつながり、心のやりとりなどが日常のことばで綴られています。介護や福祉は特別な別世界の事ではない、私たちの生活に関わり続けていることをわかりやすく教えてくれます。

時には専門書を離れほっと和みながら、いろいろなことを考えてみるのも良いのかもしれません。

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 教員 佐野 仁美



『超ホスピタリティ：おもてなしのところが、あなたの人生を変える』

鎌田實著 PHP 出版



理学療法士になって2年経った頃、先輩から患者さんに対する態度のことで、必ず直した方がいいと教えてもらったことがありました。それは、「横柄な態度」でした。自分では自覚していなかったことで、丁寧に接しているつもりだったので、はっとさせられました。と同時にショックも受けました。

「どのような接遇を患者さんは求めているのか、患者さんとどう接したらいいのか」、その答えを探していた時、この本を見つけました。医療者としての仕事のコツだけでなく、ひとりの人間としての生き方のヒントも学べる本です。

リハビリテーション学部理学療法学科 助教 田中 真希



『「わかり方」の探求：思索と行動の原点』

佐伯胖著 小学館



なにかおもしろいことはないかと探していた時に出会った一冊です。

『世の中にははじめから「おもしろいコト」があるわけではない。一見つまらないことでも、疑ったり、迷ったりしていくうちに「おもしろくなってくる。』（302ページ）

この本を読んだ後、いつもと違う視点で周りを見渡すと、物事をわかったつもりでいる自分にはっとしました。そして気が付いた疑問を夢中で考え続けていることに気が付きました。そこにある本当に大切なことは何かを問い続け、わかろうとするおもしろさを教えてくれるお薦めの一冊です。

看護学部看護学科 助教 松元 由香





『夜と霧』 ヴィクトール・E・フランクル著 霜山徳爾訳

『夜と霧』(新版) ヴィクトール・E・フランクル著 池田香代子訳
みすず書房

人間生きていれば悩みや苦しみはつきものです。皆、それらを背負い、耐え忍んで生きています。第二次世界大戦の折、ナチスの強制収容所に収容され、言葉には言い尽くせない過酷で悲惨な極限状態の生き地獄を体験した精神科医フランクル。彼は、死に追いやられ、生きる意味や希望を失っている人たちに、それでも尚、希望を失わず生きる意味を諭し続けました。この自らの体験の記録が『夜と霧』です。「永遠のロングセラー」として読まれ続けている名著。

社会福祉学部社会福祉学科 教授 村田 哲康



.....

『健康・医療の情報を読み解く：健康情報学への招待（第2版）』
中山健夫著 丸善出版



現代はインターネットが発達し、誰でも検索すれば簡単に多くの情報が手に入ります。そのため、自分自身で溢れる情報と上手に付き合わなくてはなりません。この本は大学の人気講義が元になっており、健康や医療をテーマとしているため、本学生は興味を持って読むことができると思っています。情報を読み解く力を養うことで、様々な情報・データとの付き合い方やレポートの作成などに役立ててみてはいかがでしょうか。

看護学部看護学科 准教授 安田 智洋

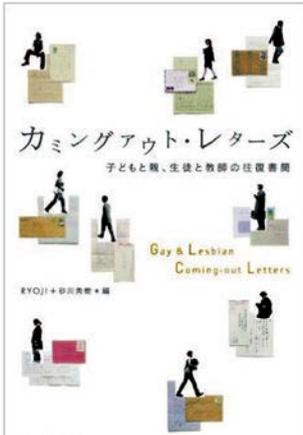




本学大学院生からのお勧めの一冊

『カミングアウト・レターズ：子どもと親、生徒と教師の往復書簡』

RYOJI+ 砂川秀樹編 太郎次郎社エディタス



自分が同性愛者であることを親や教師にカミングアウトし、その時の双方の思いを伝えた手紙を集めています。記された思いや感情に対し、私が抱いた強い共感と尊敬の感情は、行動に勇気と自信を与えてくれました。

社会はますます多様化します。同性・両性愛者やトランスジェンダーを含めた、「マイノリティ」とされている人たちも、誰もが自分らしく生きられる社会になるべきです。医療福祉職はその最先端を担うと思います。しかし現在の日本は、そして医療福祉の現場は、差別や偏見に溢れています。無意味な枠組みにとらわれない、「自分らしさ」を大切にできる一冊です。当事者ではない方にも特にお勧めです。

リハビリテーション科学研究科（博士後期課程）院生

2015年度図書館サポーター

臼井 晴信



以前紹介した「この一冊」です

2015年度

- 📖 『大学で何を学ぶか』
加藤諦三著 ベストセラーズ
- 📖 『中学生からの作文技術』
本多勝一著 朝日新聞社
- 📖 『鈍感力』 渡辺淳一著 集英社
- 📖 『布のいのち』 堀切辰一著 新科学出版社
- 📖 『100万回生きたねこ』
佐野洋子作・絵 講談社
- 📖 『学び続ける力』 池上彰著 講談社
- 📖 『まねっこでいいから』
内田麟太郎文、味戸ケイコ絵 瑞雲舎

2014年度

- 📖 『The Missing Piece Meets the Big O』
Shel Silverstein著 Harper & Row
- 📖 『現代語訳論語』
孔子著、齋藤孝訳 筑摩書房
- 📖 『下町ロケット』 池井戸潤著 小学館
- 📖 『だから、あなたも生きぬいて』
大平光代著 講談社
- 📖 『TEDトーク：世界最高のプレゼン術』
ジェレミー・ドノバン著、中西真雄美訳 新潮社
- 📖 『道は開ける』
D・カーネギー著、香山晶訳 創元社
- 📖 『私は赤ちゃん』 松田道雄著 岩波書店

蔵書の検索方法

図書館ホームページがリニューアルされ、横断検索ができるようになりました。検索窓にキーワードを入力し、①のタグの中からデータベース等を選択して検索することができます。



「本学所蔵」からの検索結果です。②の「資料種別」から「図書」や「雑誌」に絞り込むことができます。③の書名をクリックすると「検索結果詳細」画面に移ります。



検索結果詳細：図書

検索結果詳細：図書

高専貸+小規模型介護：登場ケア付き住宅の本命：高齢者介護を変える
 コウゼンチン プラス ショウキボガタカイゴ：トウジョウ ケアツキ ジュウタクノ
 浅川澄一著
 東京：簡井書房，2007.7
[Amazon.co.jpで詳細を見る](#)

ブックマーク

●所蔵：

巻号	予約人数	刷年	所在	請求記号	資料ID	状況
1	0		開架	S263 AS	30207716	利用可能

全て選択 選択解除 巻号ブックマーク

●刊年 : 2007
 ●形態 : 125p ; 19cm

- ④ クリックすると配架場所の地図が表示され、おおよその位置がわかります。
- ⑤ 図書の背表紙に添付されているラベルの番号です。この順に書棚に並んでいます。
- ⑥ 「利用可能」の場合は書棚にあります。貸出中の場合は「貸出中（返却予定日）」と表示されます。

検索結果詳細：雑誌

検索結果詳細：雑誌

検索条件入力 > 検索結果一覧 > 検索結果詳細

◀前へ 次へ▶ 2 / 3件

介護福祉学
 カイゴ フクシガク
 日本介護福祉学会 [編]
 東京：日本介護福祉学会
 東京：ワールドプランニング (発売)

ブックマーク 新着を通知

●雑誌の所蔵：

所蔵巻号	請求記号	所在	所蔵年
1 1-7, 9-10, 12(1), 13-21, 22(1-2)+		製本雑誌	1994-2000, 2002-2003, 2005, 2007

●雑誌の巻号：
 ▶バックナンバーを見る

☐ Vol22 No2 2015年10月1日 [最新号]

所在	請求記号	資料ID	受入日	製本状態	状況	予約人数
1 新着雑誌			2015/12/04		利用可能	

▶バックナンバーを見る

全て選択 選択解除 巻号ブックマーク

- ⑦ 所蔵している巻号が表示されます。
- ⑧ クリックすると配架場所の地図が表示され、おおよその位置がわかります。
- ⑨ クリックするとバックナンバーが表示、雑誌の巻号で検索できます。

お知らせ

★ 2016年4月から「聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校」が開校しました
専門学校の学生の皆さんも、大いに図書館を利用してください。

◆メディカルオンラインで電子書籍が閲覧できます

図書館ホームページの「調べる・探す」から【メディカルオンライン】をクリックするとこの画面が表示されます。検索窓にキーワード・書名等を入力して検索してください。「閲覧」をクリックしていくと電子書籍の閲覧ができ、書込み（ペン・付箋）やページごとの印刷もできます。

また、「資料探す：電子ジャーナル」にある【電子書籍の一覧表】から、閲覧できる図書が見られます。



◆聞蔵（朝日新聞記事検索）の利用は、学内どのパソコンからでもアクセスができます

聞蔵では、朝日新聞の縮刷版（1945年～1989年）とテキスト＋記事（1984年～現在）の切り抜きPDFが見られます。紙面イメージもカラー表示となり、見やすくなっています。

図書館は公共の場です。マナーを守ってお互い気持ちよく利用しましょう。

図書館報 第14号／発行・聖隷クリストファー大学図書館／2016年4月1日

〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町3453 TEL:053-439-1416 FAX:053-414-1146

E-mail:cl-library@seirei.ac.jp 図書館ホームページURL:http://lib.seirei.ac.jp/library/